

# 子育てしやすい 職場環境とは？

(株)千田精密工業に事務職として勤務する築場さつきさん。二人のお子さんのうち、2歳のお子さんの送り迎えをしながら職場へ通っています。築場さんの場合の育児休業の取得と職場の環境について、ご本人と代表の千田二夫さんのお二人にお話を伺いました。

築場さんは、一昨年の12月に出産し、産後休暇の後、10か月の育児休暇を取ったそうです。現在は、育児時間として朝の30分短縮勤務をしています。

**築場さん**「最初は仕事を続けられるかどうかやっぱ不安で、悩みました。でも、職場の人たちにサポートしてもらって、仕事を続けることができました。」

**千田さん**「子育ては一人でできないのが当たり前。昔から、旦那さんや親の協力を得たりして、みんなで育ててきた。会社や同僚たちもみんな協力することに何の違和感もありません。」

**築場さん**「実は、社長自ら相談に乗ってくれたんです。やめなきゃだめでしょうか？と相談したら、育児休暇もあるんだから、続けなさいと言ってくれて。」

**千田さん**「困っているのに、相談もせずに自分から辞めるような職場ではいけない。『何のた

めに働くのか？』子どもや家族と楽しく、あなたかい家庭を作るためでしょう？若い世代は子育て、40〜50代は介護の問題がある。でもそれは人としての役割ですから、それを果たせない会社にはしたくありません。」

社長をはじめ、同僚の方たちに親身に相談に乗ってもらったと語る築場さん。

**築場さん**「現在の育児時間も、最初は取る予定ではなかったんですが、やってみると、子どもを保育園に送っていく時間がどうしても合わず、途中から会社に相談しました。子育てでは、主人も仕事しながら家事をしてくれませんが、会社が親身になってくれることで、主人も感謝しています。夫婦も田舎です。」

社員の子どもや家族を、会社みんなが自分の家族のように心配していると、千田社長は話し



ます。  
**千田さん**「普段から、会社に子ども連れてきてもいいぞ、と言っています(笑) 学校で何かあっても、会社に電話がかかってくるし、家族の病気などで休む社員がいれば、朝礼で話して、みんなで快く助け合っています。」

最後に、育児休業の取得や、働きやすい職場環境づくりについて社長に尋ねました。

**千田さん**「子育てに限らず、一番悩んでいるのは本人。『就業規則や制度があるから、休みます』ではなく、『迷惑をかけてしまうんじゃないか』という気持ちで休みにくいもの。そんな時、プレッシャーをかけないように、社員の家族のことを考えて寄り添っていけば、気持ちは伝わります。また、本人も会社も、経営サイドでばかり考えるのはいけない。どうしたら、この人たちと一緒に幸せに生活しているか、という視点で考えるべきなんです。」



## 町内事業者が目指す 働きやすい環境づくり

昨年度、町が開催した「仕事と家庭の両立に関するセミナー」では、町内の事業者が参加し、労働市場の変化や、多様な人材と働き方のマッチングなどについて学び、子育て世代の育児と仕事のバランスについて考える機会となりました。

参加した事業者の方々からは、「子育て世代の希望する勤務時間や、職場の雰囲気的重要性などを理解できた」などの感想が聞かれ、今後、「従業員の育児と仕事とのバランス」や、「職場の環境づくり」について積極的に取り組んでみたいという意見が出されました。

## 「プチ勤務」への 取り組み

町は、時間的な制約等によって現在仕事に就いていない人が町内の事業者採用され就業されることを目指し、岩手県沿岸広域振興局との連携の

と、「プチ勤務カタログ」作成に取り組んでいます。「プチ勤務」とは、シフトに加え、業務の細分化を行うことで生み出される超短時間勤務の仕事です。第一弾のカタログには、公募による社の事業所情報が掲載されていますが、この他にも生活と仕事を両立しやすい職場環境づくりに力を入れる事業所が増えてきています。

子育てと仕事の両立は、子育て世代が抱える重要な問題です。「仕事を続けたい」「子どもと過ごす時間がほしい」といったことはだれもが抱える悩みであり、自分だけで解決するのは困難です。時には助けを求め相談してみませんか。職場の上司や同僚、地域の人たちと、子育てと仕事を両立するためのより良い環境づくりに取り組んでいきましょう。

